

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	”まさか”といって笑える心をつくる <五十年会公開授業記録>
Author(s)	福田, 志保; 小泉, 節子
Citation	児童の言語生態研究 , 8 : 39 - 44
Issue Date	1977-01-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045091
Right	
Relation	



「まさか」といって 笑える心をつくる

福田志保 ほか

1. 授業案

日時 昭和五十年八月四日午前九時四十五分～十時

三十分

二児童 福井県勝山市平泉寺小学校二年、福田学級

男子十三名・女子五名 計十八名

三領域 構え(構えの転換)

四授業テーマ 「まさか」といって笑える心を作る

五教材 「あたまた山」(落語)

六授業テーマ及び単元設定の理由

「あたまた山」はあり得ない話なのだけれども、そんな気にさせられること自体に、おもしろさがある話である。といっても、これは大人が考える「あたまた山」の感情であり、果して子どもたちは、そう取ることが出来るだろうか。夏休み前に、二年生にわらい話をしたところ、「まさか」と笑うはずであると想像していた子どもの顔は、驚きと拒否反応に満ちていた。話を話として真剣に考えすぎるが故に、少しもこの話で遊ぶことが出来ないでいる。「お話なのですよ。」等といっても、焼け石に水の状態であった。これは、話を話として、おもしろがり、遊ぶという構えが皆無の状態だからだろう。

「誠にしき腔ありとも、腔らしき誠いふべからず。」という古人の金言があるが、「あたまた山」は、前半の「誠にしき腔」ということになる。笑い話の世界は、おおむね、このようならそこから発生した尾ひれを取り扱う。本当は、うそなのだが、誠にしくその気にならせる状態に笑いが伴うということを、意図して作られているものが多い。

だが、子どもたちはなかなか、「まさか」を許容の

意で把える構えがとりにくい。むしろ、あとの方の「腔らしき誠」の方を行っているように思える。自分の思う範囲でしか事実を見ることが出来ないにもかかわらず、事実に自分の感情をくっつけていく構えの取り方が、大部分であるように見受けられる。

日常子どもたちの口から、「まさか」という語をほとんど聞かない。よしんば聞くことがあったとしても、拒絶、拒否の姿勢が前面に出て、「本当？」と疑う気持から、直ちに「うそだ」という二者択一の迷いがあるまでである。さらに一步を進めて、「まさか」という余裕のある構えがとれない。

「まさか」と笑う大人の構えは、ある成長点に達した、拒否・拒絶から許容へと転移したものと考える。

まだ未発達な過程の子どもたちが、拒否・拒絶の固い構えから、許容の「まさか」へ構えを和らげ転換することが出来たとき、この「あたまた山」の笑いが、可能になる。

七単元の目標

本当はそんな事起こるはずなのだけれども、そんな気にさせられること自体を楽しむことが出来るようになる。また笑い話は、そうした意味でのある方法を持った作り話であることをわからせることによって、よりおもしろく、よりおもしろく話を作ることが出来るようにする。

八指導計画(一時間)

ありそうもないことを、さもあるように作ることが出来るようにする。

学習活動

○本時のねらいを
確認する。

- カード①の確認
- カード①の続き
話を考える。
- カード②の確認
と理解

○カード③の理解
ののち

指導上の留意点

○きょうは、お話をし
ます。そのお話はうんと
おもしろい話でなければ
なりません。

あるところに、けち
なちべえさんがい
ました。けちべえさ
①んは、さくらんぼが
落ちてゐるのを見つ
けました。

このあとを、続けてもら
います。うんと、おもしろ
い話でなければなりません。
「ありそうもないことを、
さもあるように作ります。」
(くり返し復唱させる)

○学習の方法を児童に理解
させるためのものである。
○発表内容を板書する。

さくらんぼを食べま
②した。たねごと食べ
ました。

ここまでが本時の導入。
本時のねらいと方法を徹底
させる。

まいにち、おおぜい
③の人が花見をしてど

けちべえさんは：

のあとに予想さ
れるありそうも
ないことでも、
さもありそうな
話をつくる。

○カード④の理解
ののち、あると
：のあとに予
想されるありそ
うもないことで、
さもありそうな
話を作る。

○カード⑤の理解
ののち、そのあ
とに予想される
ありそうもない
ことでさもあり
そうな話を作る。

○カード⑥の理解
ののち、そのあ
とに、予想され
るありそうもな
いことで、さも
ありそうな話を

んちゃんさわぎをし
ました。けちべえさ
んは：

○けちべえさんの頭の上の
木であることを再確認し
ておく。

けちべえさんは、う
るさいので、頭の木
④をぬいてしまいまし
た。すると：

○切ってしまいました。血
が出ました。などの反応
より、木をぬいてしま
しました：の方がより、あ
りそうもないことでもあ
り、さもありそうで、あ
って、おもしろいことを
知らせる。

すると、あたまに、
⑤ほっかりと穴があき
ました。

夕だち(大雨)がふ
⑥って、大きな池にな
りました。
○夕立・大雨のいずれでも
良い。

作る。

○カード⑦の理解
ののち、そのあ
とに予想される
ありそうもない
ことでさもあり
そうな話を作る。
○カード⑧で終り
にする。終りに
するためには、
最高のおもしろ
さを持たねばな
らぬ。

⑦池はプールになりま
した。

○池の中で、どのような
きごとや事件があるか十
分に考えさせる。

⑧けちべえさんは、う
るさいので：

(原文：頭の池にとびこみ
ました。これを最後に提
示する)

○「これまでより一番、あ
りそうな話でなければな
りません。」

○これが最高のおもしろさ
であることを主張させる。
○もし、子どもの出したも
のが、カード⑧以下であ
るならば、⑧がすぐれて
いることを、確認する。
⑥のあとに原文をつけ
加えて示す。

2. 授業記録とその所見

T K おもしろい話、知っているかな。

C (うなづく)

T K きょうはね、おもしろい話を作ってもらいます。

C 出来ないよ。

T K こんにちは。むかしむかしもがどんぶらこ流れてきました。そしてものを拾ってきて、おばあさんが、それを切ると、ものの中から、男の子が出て来ました。

C そんなの。知ってらい。もも太郎だ。おもしろくないよ。ねんねくさいよ。

T K じゃ、ももを切ったら、中から、おばあさんが生れてきました。

C あっはは……

C それならおもしろい。

T K それならおもしろい。どうして。

C (N) おばあさんだから。

C (H) おばあさんは、生まれてこないもん。

T K こういうふうに、きょうはおもしろい話を作ってもらいます。だけどね。きまりを守ってもらいます。ちょっと黒板を見て下さい。ここに何て書いてあるかな。みんな読んでみよう。

ありそうにもない話を、さもあるように作る。

きょうは、この作り方で作ってもらいます。

C できないよ。

C むずかしいな。

(F) きょうの学習は「話を自分達が作ることだ」ということは大部分の子がわかったと思う。但し「ありそうもない話を、さもあるように」ということばの

意味が漠然とでもわかったのは、永井と平瀬の二名だけだと思ふ。私ならばここで練習に入る前にくどくどと説明したと思ふ。合宿の時にも話したように私など、少なくとも八割位は理解した上でないと、授業を進めてならないという何か思いこみがある。
……)

T K じゃね。むずかしいから練習をしましょう。練習だからまちがってもいいですよ。おはなしの始まりはこうです。△黒板を示す▽

ある所にけちなけちべえさんがいました。けちべえさんは、さくらんぼが落ちていたのを見つけた。した。

さ、この続きを作ってもらいます。ありそうにもない事をさもあるように作って下さいね。

C (N) 子どもが、けちべえさんに「それをくれ。」といいました。そうしたら、「あかん、あかん」というた。さくらんぼをひとりじめにした。

C (K) 一個しかないの、また拾おうとした。

T K けちべえさんは、さくらんぼを見つけてどうしたと思ふ。

C (S) 食べた。

C (H) 続き。食べてたら、その味を見たら、しょっぱかった。

T K これは、ありそうもない事？

C ないことをあるようにしたことだ。

T K さくらんぼを見つけたことは、ありそうもないかな。

C (T) あると思ふ。

T K じゃ、あることなんだね。これはだから、あまりうまくいかないね。△子ども達の発言を板書して、

その上に△印○印をつけていく▽

T K じゃ、次にいってみよう。拾った事は？

C (N) ありそう。うんうん。

T K しょっぱい味は？ありそうにもないこと。

C (H) うんうん。

T K なかなか、むずかしいね。じゃ、これはどうかな△と、②を示す▽

さくらんぼを食べました。たねごと食べました。

C (K) ありそうでない。

(F) このあたりでは、ありそうもないことの意味は、わかってきたようだ。()

T K たねをどうする。

C うめる。すてる。

T K けちべえさんはどうしたの。

C たねごと食べた。

T K それが、ありそうもない事だね。

C (H) けちや、すてんで、けちやから、すてんで、食べよったんや。

T K その調子。もうひとつ練習しよう。

C (N) 腹が痛い。

C (H) けちべえさんはおなかをこわしてしまいました。

C (T) おなかの中から芽が出て、ねっこがはえてきた。

T K 何の木がはえてくるの。

C さくらんぼの木

C (S) 頭の上から、木が出てきたの。

(F) 今まで出てきた発言の板書を示しながら▽

T K 今度は「ありそうでない話を作れたかな？」はらがないといいました「は？ありそうもな

いかな。

C 当然にあること。

TK おなかをこわしましたか？

C 同じだ。

TK 根が出て木がはえた、は？

C1 うん、水をやらな、あかん。

C2 タネさかさまから生えて。

C3 おしりから根っこがはえてくる。

TK ありそうにもない事かな？

C うん。

TK 根はおしりからね。では芽は？

C 頭から。うんうんありそうもない。

TK さもあるようにを考えて下さい。

どうしてさもあるようになるの？

種ごと食べたから。

しばらくたってから、根が出て、けちべえは桜の木

になってしまいました。

TK どうして桜の木、はえてくるの？

C(N) 種はスイカでも種でえ。何でも出来るんでえー。

(だからさくらんぼはさくらの木がはえてくる。)

C(H) あんまりけちでえ、さくらの木になってしまっ

た。けちべえさくら。

(F) 桜の木が頭からはえてきたというよりは、けち

べえさんが桜の木そのものになってしまったと考

えているようだ。このまま話の続きを考えさせたいよ

うな気がする。けちべえさんどこへ行ってしまう

たか。その桜の木はどうなるか。ありそうもない事

をさもあるように、のぶちゃん(平瀬)がどう作る

か、知りたいと思う。)

(K) この授業を行うとき、はじめに持った危倶は、子どもたちが、こちらがタンザクを提示するそれぞ

れにどれだけついてこれるものかを見たいことと、

子どもたちの連想が一筋にのびることと、相殺され

てしまうのではないか、ということであった。子ど

も連想をさえぎってまで、こちらの意図する話へ

と移行させるべきなのか、否か。ということがあ

った。しかし授業の実際には子どもたちは話をその都

度作っていき、また考えなおしながら、イメージを

ふくらましていった。)

TK 種を飲んだから、桜の木が生えてきてもおかし

くない。その事が「さもあるような話」ですね。

こんな調子で「ありそうもない話をさもある様に」

作って下さい。(カード③の提示)

けちべえさんの頭に、にょきにょき、桜の木が生え

てきました。

TK さあこの後を考えて下さい。

C(3) そして、歩けんようになった。

C(N) けちべえさんは桜の木を切ろうと思いました。

C(2) さくらの木とましがえられました。歩いてい

ると人に笑われました。

C(H) 桜の木が重いので、けちべえさん、地面の中に

すわってしまいました。

C(O) 木が重いで、サクランボの木を切ってしま

ました。

C(K) 頭の上にはええたのを切って、また切ったので、

下のその穴に水が入って、お魚がいたの。(この児

童は、この話、幼稚園で聞いた事があると言ってい

る。)

C(N) けちべえさんは桜の木を切ろうとしました。そ

して穴をほって、桜の木を埋めようと思いました。

(F) ここで、今まで発言しなかった子が発言し始め

それ以前に発表した子たちの意見を聞いて、やり方

がわかったのだと思う。それと、もうひとつは、頭

に桜の木を生やした異様なけちべえさんの姿が、子

ども達の頭の中ですんなり、思い描かれたのだと思

う。だからこそ、けちべえさんの行動を想像できた

のだろう。大人ならばそんな馬鹿なと否定するか、

そういうことにおきましよう。と、肯定するか

するところを、子ども達は案外理屈抜きで許容する

ことが出来る。楽しめるということには驚かされた。

(K) 理屈抜きで、許容するというよりは、イメージ

が奇想天外性へと進んでいると考えるべきではない

か。子どもたちのイメージが刺激し合って、どんど

ん話を作る要領がわかり、思考を介在させないイメ

ージだけを連続させている。そんな感じがする。実

は方法的にも、奇想天外の話作りだけに終らせない

ために、あくまでこのテーマを出しておいて、そし

て、カードでセーブしていたのだが、やはり作り話

するおもしろさだけの波に乗っているという感じが

する。)

TK (A) カード④を示すV

毎日、おおぜいの人が花見をして、どんちゃんさわ

ぎをしました。けちべえさんは、

TK さあ、このあと？

C(N) けちべえさんが踊るたびに桜の実が落ちて、踊

っている人が、もう拾いたい、もっともっとたい

こをたいた。

(F) けちべえさんも一緒に花見をしていると考えて

いるのだろうか。)

C(H) けちべえさんは桜の実が丁度なるときどんちゃ

んさわぎをしているときに、木を切ってしまうので、

頭といっしょにとれてしまいました。

C(Z) 血が出てきました。

C(Y) それから抜いたから、頭も一緒に抜けてしまった。

C(N) 抜いた時、頭も一緒に抜けて、体までうちの屋根をこして、飛んでいってしまった。

(F) 子ども達は桜の木を抜くと頭ごと取れてしまうと、考えている。これを授業に生かすことはできないか。)

(K) 桜の木とけちべえさんの頭が接続しているという考えだと全く異なる視点、という感じがしない。頭の上とけちべえさん自身との二つの視点が同時にあるとき、「まさか」を見出すのではないかと思う。もしもここで取り上げるのなら、むしろこの前の「けちべえさんが踊るたび」のところを取り上げた方が良かったのではないか。しかしここで「まさか」を子どもたち自身が感じないのならばそれに気づいた時に、取り上げた方が良策と思った。)

△カード⑥を示すV

すると、頭にぼっかりと穴があきました。

TK さあ、出来るかな。

C(N) あるある、ある。

C(H) その穴の中に土を入れて、土の頭になって、人にわらわれました。

C(E) そして頭は海はその寝ている時に全部出ていってしまった。

TF そうや、ますますからっぽになっただね。

C(N) そして、泉と思って雨が降って、魚も入ってきて、いっぱい人がきて

C 金魚使いか。

C(N) 魚つりをして、自分もやってみたいと思って、ポートを入れた。

(F) おもしろい。恐らく、この子の頭の中では自分もそのポートに乗っているのだろう。とすると、このついでに筒所(「けちべえさんが踊ると」)というの、けちべえさんも、頭の上で花見をしていると考えるもいいのだろう。いや、やはりそうではない。踊ると、さくらんぼが落ちるんだから、けちべえさんの体がゆれなければならぬ。とすると、けちべえさんと頭の上にいる人間との大小関係はどうなるのか。私はやはり福井県人です。)

(K) この所、授業で取り上げたいと思った。魚つりをしたいとポートを浮べるけちべえさんと、釣場の主であるけちべえさんと。ここで、はじめて「まさか」と笑える構えに迫れる様な気がした。でも、このとき無理やりその疑問を打ち出すよりも、最後のカードで、子どもたちの反応を見てからと思った。)

C(T) その穴の中にザリガニがいて頭を切ってしまった。

C 穴があいたので、あんまり痛いので、なんとかして、ふさいだ。

C(H) 魚釣をして、針がもう一回頭にひっかかって、もう一回引っ張ったり、頭がもう一回とれた。そして、もうけちな事をしなかった。

(F) 極めて道徳的ではあるが、話の結末、おちをつけている。それにしても頭がもう一回取れてしまったと言いつつ、もう一方で、けちなことをしなくなったといっている。まさしく、ありそうもない事をさもあるようにではないか。)

(K) けちというの、この話の大部分を占めている。それがわかっているのに、いつまでも、けちにこだわる。こだわるどころに、おもしろさが生れることをこの子は知っているのでないだろうか。)

△カード⑦カード⑧を示すV

大雨が降って、大きな池になりました。池はプールになりました。

C 池に入れるかな。

C プールだと、つぶれてしまうわ。

C(H) 池がプールになって、あんまりおもしろいので、けちべえさんは、つぶれてしまったので、セメントをつめてしまった。

TK ずいぶん、おもしろい話がたくさんできました。ではね、今度、ここでは一番最後のお話を作ってもらおう。

△カード⑨を示すV

TK いっぱいプールに人がいたので、けちべえさんは、うるさいので…

C うるさい。

TK さあ、このあと、これで、もう話が終るように、「ありそうもない事を、さもある様に作る」で、いちばん、ありそうでないおもしろい話を考えて、終りにして下さい。最後だから、気ばって作って下さい。

C(N) よっしゃ。

TK これでもうビッシヤリ終りにします。けちべえさんの頭の上で、うるさいので、けちべえさんは一体どうするのかな。

C(Y) うるさいので大声を出して、「うるさい」と言って頭をかかえた。そして走っていった。

(F) 普段は注意散漫で反応も鈍い子なのに素早く反応している。カード⑤を示したときの発言から、ずっと集中していたものと思われる。尚、この子は九月に教科書に出ている漫画をもとにして、紙芝居を作った時も、話を作る事が楽しくてしょうがない様

子だった。)

(C)(M)そして、あんまりうるさいので、「うるさい」って言って、頭をうーんとふったら、そうしたら、子どもは飛んでいってしまった。ぼーんて振ったら、顔ごと、飛んでいって、死んでしまって、プールだけ残って、ウーちべえプールになって、うみになってしまった。

(F) ウーちべえさんは死に、池は残る。おちとしては、原文と同じである。あまりにも、出来すぎた様にすら、思えます。)

(K) 死で話をまとめようとする傾向がやっぱりあるのだなという気はするが、プールだけ、残るとするのは、小憎い感じがする。)

O ウーちべえプールになった。

(C)(Z) あんまりうるさいのでプールの水ごとがあーってあげた。

(C)(N) 飛んでいって、また子どもが走ってきてまた乗ってとか。

(C)(E) 質問、頭小さいのに、プールにも泳げるし、海は大きいし、おかしいな。

(C)(H) それがありそうもない事や。

△カード⑩を示すV

あたまの池にとびこみました。

TK さあ、こんなのは、どう?

△⑩を示したとたん、間髪を入れず、第一声V

(C)(H) そんな事あるけえー。

とびこまれるけ。ありそうもないことやで。とびこまれるか。

頭をとってしまわなきゃいけない。

そうすると反対になるけん。

(K) ここから子どもたちの「ありそうでもない話を

さもある様に作る。」という構えの弱い点が見えた様に思う。今までは、イメージに頼って作ってきてその「まさか」の構えがいかなるものであるか、思想的には問いつめていかなかった様に思える。ここで矛盾に始めて気がつくのが、えいちゃん。初歩的な疑問として軽く流す平瀬君。しかしその平瀬君とでも、カード⑩の出現には、「まさか」と思わず発してしまったと見たい。「そんなことあるけえー」

っていうのは表のコトバで、これは「まさか」ということばと、全く変わりないと思う。

「まさか」というもののしくみをこの子の頭の中で私自身が知った気がする。許容もはじめは驚きがあり、そして許容があるのだと、そして、この子にとっては、その「まさか」を今までやってきたことから、《今までのお話作り》気づいていない。ということになってしまおう。

(C)(N) 足の方から、入っていくと、またひっくり返ってしまおうで。

O 足から入れる? おながポツンと切れてしまおうし。

TK 「ありそうもないことを、さもあるように作る」んだよ。でも、これはだめ?

O いいけどさあ...ふたつに切れちゃってさあ...TK 「ありそうもない事をさもある様に」だよ。

TK さあ、今まで作ったうちで、どれが、一番おもしろいかな。それをきいてみよう。

(C)(H) さいごのうるさいって、頭のとんでいったこと。

えいじ ぼっかり穴があいたっていうこと。

(C)(N) 頭を振ったら、子どもたちがとんでいってしまったこと。

(F) 自分の考えついたことが一番おもしろいと言っているが、それだけ、楽しんだ。この子たちにすると当然の事だと思う。)

(K) 私などは、最後が決め手だと思うが、子どもたちにとっては、あり得ない事として、とらえる。あり得ないお話は、自分の路線にのせがたいのであろうか。)

TK きょうのお勉強どうだった。O おもしろかった。

TK これからも「ありそうもないことをさもある様に」お話を作って下さい。△もう一度、「ありそうもないことを、さもあるように」を声をそろえていわせる。V

O ハーイ

TK これで、おわりです。(F) 授業をする前に恐れていた事が私の取りこし苦労に過ぎなかったことがわかり、子ども達を見直すとともに、私のこれまでやってきた国語教育に対する構えを立て直さなければならぬと思いました。かといって、具体的な方策は何もないのですが...授業を終えてみて、最後まで、表情の動かなかった子が二人いました。この子達にとって、あの授業はさっぱりわからなかったのだと思います。)

(注) TK 授業者 小泉節子

TF " 福田志保

F 授業後の感想 福田志保

K " " 小泉節子)